

美術作品収集方針等の県民説明会の意見概要

地 区	日 時 等	参加者数等
県民説明会(県教育委員会主催) 米子会場	11月3日(木・祝)14:30-16:00 米子市立図書館	55名 会場発言者8名

会場発言者①

・まず私が「憤り」に近いものとして感じているのは、片山知事の時に中止にしたものを、平井知事になってなぜこの美術館をつくったか。コロナでこれだけ経済が疲弊したときに、なぜ、「白紙に戻す」という英断ができなかったか。年間 18 万人の目標について、私は悲観的な意見で、果たして本当に実現可能なのか。ある人は 100 万人と言っているが。

・アンディ・ウォーホルについて雑誌の Pen (2022 年 10 月号)で見たが、ポップアートとか意味すらわからない人が大多数。それと、絵画の普遍的な価値というのは経済の株価に比例している。だから投資目的のような感じで買われるのであれば大きな間違いだ。

・今後、この美術館の運営上、採算が取れるのか。「負の遺産」として残った場合にはどうするんだということ、あくまでも税金である。

→梅田美術館整備局長

・「負の遺産」であるとか、運営が大変である。これは、そうならないと断言することは誰にも不可能だと思うが、手を打っているという部分で言えば、県直営ではなくて民間事業者とタッグを組むPFI事業という手法をとっている。

会場発言者①

・運営にあたっては、18 万人で採算ラインか。

→梅田美術館整備局長

・令和元年に県議会で予算を認めていただいたときに将来に財政負担を残すなど意見をいただいております、これを踏まえてPFI事業の手法をとっている。県直営でやるよりも、民間の力でその効果が増えるという見込み。

・石橋をたたいて渡るようなことしか申し上げられないので、県議会では年間 10 万人と認めていただいているが、もっと県外から人を呼びたいという希望もあり、民間事業者の提案で 18 万人という目標が設定されている。18 万人を呼び込むことができれば採算がとれる計算をしているが、そこは、県が運営をしっかり監視していく。

会場発言者①

・アンディ・ウォーホルの認知度はどれだけあるのか。作品を見て「考える」機会とおっしゃったが、「考える」前に分からないものは見に来ない。

→尾崎美術振興監

・アンディ・ウォーホルの立体作品は、ほかに日本には無い。新しい県立美術館では、(常設展示室が 5 部屋あり)美術館にとって一番重要な常設展を充実させることができる。1 点 1 点を目玉として人を呼ぶというより、前田寛治や辻晋堂の代表作を並べるなどして常設展を充実することによって、人が呼べるんじゃないかと考えている。

会場発言者①

・テレビ番組で、購入にあたって 7000 万円までは議会の承認が要らないので、《ブリロの箱》を 1 点ずつ買ったと紹介していた。

→尾崎美術振興監

・それは誤解であり、5 点組の作品ではなく 1 点ずつの作品。制作年も違うし形状も違う。

会場発言者①

・《ブリロの箱》5 点で、大量消費、大量生産の資本主義の最たるところが表現できるのか。

→尾崎美術振興監

- ・それについては我々が努力したい。・他の作品等も文脈をつくっていく。

会場発言者②

- ・鳥取県へ来ればこういうものが鳥取県の物として必ず見られると、他にない物が中心になって欲しい。メジャーになるものを県の美術館が掘り起こして、次の世代に渡していく責任もあるんじゃないかと思う。3億のウォーホールはすごいと思うが、それをずっと続けたら金はいくらあつたって足りない。
- ・工芸の分野、陶芸や織物の先行きが見えなかった。絵画だけが美術館の品物じゃない。
- ・要は、熱意と足を使って探して歩くこと、それが大切。分野を偏らずに、金をあんまり使わずに、最大限この鳥取県でできるものを、目と足と頭と情熱で係の人たちはやってもらいたい。

→梅田美術館整備局長

- ・工芸の作品も収集方針の拡大の中に位置付けがあり、いいものがあれば購入していく考えは持っている。

会場発言者②

- ・収集評価委員の方々には偏りが無いようにしてもらいたい。あまりにもアンディ・ウォーホールの作品のことが出すぎて、他の物が全然意に介してもらえないんじゃないかと危惧する。
- ・鳥取県立美術館であって、鳥取県立国際美術館ではないことを考えて。

→梅田美術館整備局長

- ・新聞やテレビでウォーホール作品しか購入していないような印象を受けられると思うが、日本画や写真など鳥取県の関連の作品も購入している。収集評価委員も収集方針に従うことになっている。
- ・新聞に書かれていたが、国際美術館をつくるつもりはない。

会場発言者③

- ・プライスコレクションのことはご存知か。奥様が鳥取県ご出身であり、ふるさとの県立美術館で収蔵できないものか。

→尾崎美術振興監

- ・ご縁のある方ということは十分存じ上げている。これからどうなるかわからないが、特別にプライスさんをフューチャーする展覧会をある程度方向としては考えているところ。

会場発言者④

- ・人口も少なく子どもも少ない所だからこそ、美術館はここに必要。
- ・個々で好き、嫌いとか、面白い、面白くないとか、美術館がいいのはそういった多様性を生む一つのツールであるところ。しかし、美術館のコレクションについては1年2年で終わることではなくて今後10年、20年続く。やはり知見のある専門家の方たちにお任せするのがいいと思っているので、今回こんなに大騒動になっていることがさっぱりわからない。メディアの方々にもちょっと考えていただきたい。コレクションや美術館が目指すものについては賛同するし、応援する。
- ・確かにコロナ禍の問題があったにせよ、なかなか美術館の情報が伝わってこない。特に、鳥取県西部でこういった集まりは初めての開催ではないか。図らずも、今回の話題で美術館ができるんだって知った人も多いと思うが、自分の周りでも知らない人が本当に多い。もともと興味ない人はピンとこないかも知れないが、そういうところに対する情報とかアプローチとかが不足している。
- ・やはり外の人が見に行きたいと思うコレクションや美術館にしていきたい。やっぱり県民の一人一人がもっともっと応援したくなるようなことを考えていただきたい。
- ・今日はこういう説明会が開かれてとても良かったと思うが、若い世代の参加が少なく非常に残念。

→梅田美術館整備局長

- ・進め方についてまずい点が多々ある。米子、西部の方々に直接ご説明に来る機会は、団体さんに呼ばれるくらいで、広く市民の方に直接という機会が少なかったと大変反省すべきところ。
- ・今日は収集方針の説明というかたちで開会したが、できれば年内に米子でもう一回、ぜひこれぐらいの規模で会を開催させていただきたい。そのときには若い方々も自主的に集まっただけのように、周知はもちろん頑張っていくが、西部の方からも声を頂きたいと思う。

会場発言者⑤

- ・おもしろい話だった。
- ・鳥取県立博物館では、尾崎さんがコレクションをこんなふうに並べるとこんな文脈が見えるんだとレクチャーしてくれて、いつも楽しみで見に行っている。一方で、本日は尾崎さんが米子で話をしてくれるんだと思って来てみたら、そういう騒ぎになっていることを初めて知ってびっくりした。
- ・ピカソの作品が来た時に「都会だったらこんなに間近で作品を見られない」という話を聞き、ゆっくり見ることができる鳥取県だから、すごく良かったなと思った。県立博物館の建物に愛着があり、なぜ新しい美術館を建てるのかなというのが一つの疑問。
- ・図書館では入館料は払わずに本を読むのと同じように、美術館でも入館料を取らなくていいのと思うが、入館料を取らないと採算がとれなくなるのか。
- ・お金払った方が美術館が永続するんだとしたら、お金を払った方がいいんじゃないかと思うが。
- ・お金を払わなくても、やましくならなくていいのか。お金を払わないと美術館がつぶれると心配しなくても大丈夫か。

→尾崎美術振興監

- ・本当に嬉しい発言をいただきありがたい。
- ・今の県立博物館は常設展が狭く、あれだけ良い作品が収蔵されているにも関わらず、ほとんど見せることができない。前田寛治にしても辻晋堂にしても日本で超一流の作家であり、しっかり見る機会があつて常に並んでいる状況があれば、あの作品の良さはますます多くの人に分かってもらえると思うが、県立博物館ではそれができていないことが非常に痛恨。新しい美術館では常設展を是非とも充実させたい。
- ・新しい美術館は、展示室に入るにはお金がいるが、無料のゾーンが非常に多い。それが大きな特徴であり、売りたいと思う。近くの高校生が来て、無料のゾーンでちょっと遊んで帰る、おしゃべりして帰るといのは十分可能だと思うので、そういったところを利用して欲しいと思っている。

→梅田美術館整備局長

- ・展示室は鑑賞料を頂く計算でやっていくが、それは気軽に来ていただきながら、見ていただくときはお金を頂く仕組み。お金を払わない過ごし方もあるという仕組み。
- ・気軽に来ていただきたい、これに尽きる。
- ・PFI事業であるので、運営事業者の動きを県は監視し、「しっかり営業努力しなさい」と言うこともあれば、「魅力ある企画展をやりましょう」とかいろんな意見の言い方がある。

会場発言者⑦

- ・「アートって何だろう」という問いかけが現代アートにはたぶんあるので、ようやくそういう話が鳥取でできるのかと思うとすごく嬉しい。「ウォーホルを知らない」人が多いのは、鳥取県が美術振興をちょっとさぼってきただけじゃないかと思っていて、県立美術館が次世代を育てていくことになればいいなと思っている。鳥取県はよく「何もない」と言われるが、何も無くて若者がどんどん流出して行って若い人が育たない。「何もない」と言われたときに、「いやいや、鳥取には県立美術館があるよ」と言える希望の星になって欲しい。
- ・鳥取県立美術館のロゴ・シンボルマークの一般投票の方法が LINE のみだったが、「いや、それは公共性が無いんじゃないか」という意見が起きなかったのか。県民みんな準備をする、「県民みんな」というキーワードがたびたび出てくるが、投票は一番気軽に参加できる内容なのに投票できる人が限られてしまったのはちょっと非常に残念だと思う。
- ・そういったことを踏まえての提案だが、平成 30 年のパブリックコメントは 1 か月の募集で意見は 34 件と当時はまだ関心が低かったのかなと思うが、この関心が高まっている今だからこそ再度意見募集をしてみると様々な意見が来るのではないかな。
- ・同じような問合せや意見をまとめて Q&A というかたちでホームページか何かに掲載できれば、職員の負担も減るのではないかな。

→梅田美術館整備局長

- ・「希望の星になって欲しい」というのは本当に嬉しい言葉。それを実現しなきゃいけないという責任の重さをすごく感じている。
- ・ロゴ・シンボルマークの一般投票を LINE に限ったことは、実は非常に迷いもあった。ほかの例から組織票の問題点や事務負担の軽減から、1 人 1 アカウントの LINE による方法を取らざるをえなかったというのがやむにやまれない部分。一般投票は約 1700 の投票があつたが、今後こういった県民の方を巻き込んでやる場合においては、LINE 以上に多くの方に声を寄せていただけたという仕組みをとりたい。
- ・皆さんにもお配りしているが、[美術館でやってみたいことやあったらいいなという希望を書いていただく]「夢アンケート」を行っており、現在の 500 以上は集まっている。子どもさんのかわいい希望もあり、これを大

勢の方に見ていただくようなかたちにしたいなと思っている。

・パブリックコメントは、今後、県民の方に問いかけをするときにまた活用していきたい。

・本日の米子会場の説明会も含め会場で意見していただいた方の発言録を作っており、これを県のホームページで共有していきたいと思っている。県民の皆さんが、県民の誰かの意見を共有できるというのは大事なことだと思っており、オープンに進めるという意味でこういったことも取組みとして進めようとしている。

会場発言者⑥

・パブリックコメントの話が出たので聞いてみたいが、私立の美術館であったら、公平性を取りつける必要がない、という言い方が適切ではないかもしれないけれども、公平性を担保しながら皆さんの同意を取り付けた上で県立美術館を運営していくことは可能だと思っているか。

→尾崎美術振興監

・美術品は非常に専門性が高く、例えば県民の皆さんから希望を聞いてやるのはこれやっぱりある意味ポピュリズムで正しくないと思う。ただやはり、収集方針をこういうふう公開し、収集方針に応じて我々の専門的な知見を持った者がある程度選んで、もちろん我々が決めるのではなくて教育委員会の意見を聞きながら上げていくわけで、その今おっしゃったそのことの両立は十分に可能だと考えている。

会場発言者⑥

・安心した。

会場発言者⑧

・尾崎美術振興監が執筆された[思文閣出版「鴨東通信No.115号」の]「村上春樹と学芸員人生」を拝読した。また、思文閣出版から論文集が刊行されるので、当米子市図書館にご恵贈いただきましたら市民は読ませていただきたいと思う。

→尾崎美術振興監

・ご意見として承った。